

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.8 vol. 100

診療科紹介 — 産婦人科 —

産婦人科医長 築 伸太郎



盛夏の候、皆様につきましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

私は7月より、前任者である飯尾一登部長の後任として鹿児島医療センターへ着任致しました。これまで、九州がんセンター、鹿児島大学病院で婦人科腫瘍専門医としてがん治療に携わって来ました。医療センターは鹿児島における癌拠点病院であり着任できたことは光栄であり責任感で身の引き締まる思いです。この度、産婦人科をご紹介させて頂く機会を与えて頂きました。

まず、婦人科癌の治療について現況をご紹介させて頂きます。子宮頸癌は早期症例については広汎子宮全摘術若しくは放射線療法（或いは併用）、進行例については放射線療法を施行します。広汎子宮全摘術が可能な施設は当院も含め県内で数施設、放射線治療における腔内照射が可能な施設は当院、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院のみとなります。近年、40歳未満の若年者子宮頸癌の発症が増えていることが問題となっています（図1）。性行動の多様化などが原因の一つとして挙げられています。子宮頸癌は、前癌病変（CIN）の段階で治療を行うことにより癌化を防ぐことが可能です。円錐切除術がしばしば行われますが、治療により不妊、流産、早産のリスクが増える可能性があります。一方で、子宮腔部を蒸散するレーザー治療は妊娠出産への影響は無く、1泊2日での治療が可能です。CIN2-3が適応であり、鹿児島では当院及び相良病院で行うことが可能です。

一方、子宮体癌に関しても発症数は増加傾向です（図2）。ライフスタイルの変化も原因として考えられており全国癌登録では2010年に頸癌を上回りました。治療法としては病期に関わらず手術を行い術後にリスク分類に応じて化学療法を行います。手術は子宮及び子宮付属器摘出と骨盤から傍大動脈リンパ節を系統的に郭清します。一方、早期症例についてはリンパ節転移の頻度は低く、リンパ節郭清の省略も可能です。私の研究のライフワークはリンパ節郭清に関する子宮体癌手術であり、引き続き当院でも臨床研究を継続できればと考えております。

卵巣癌に関しては、手術及び抗癌剤を組み合わせ治療を行います。組織型や初回手術での残存病変の有無が予後を規定します。昨年末に分子標的治療薬のBevacizumabが卵巣癌で保険適応となり使用できるようになりました。化学療法により、癌を長期にわたり制御できる症例も増えており、進行癌での5年生存率は3-4割と少しずつ上昇してきております。

当科ですが、手術は火曜日を除き毎日行っており悪性腫瘍手術の他、良性腫瘍では腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術等のいわゆる鏡視下手術が増加しております。産婦人科のベッド数は25床程度ですが、混合病棟ですので柔軟に対応でき、さらには外来化学療法も可能です。私も着任して間もないですが、他科との連携を取りやすく癌治療を行い易い印象を持っています。私は婦人科腫瘍専門医、細胞診指導医、がん治療認定医、また児島医師は婦人科内視鏡技術認定医を有しており若手の指導も行っています。'病む人の心を'常に思いながら、エビデンスに基づいた治療を行うことを心がけています。今後も鹿児島大学病院、市立病院、九州がんセンターと連携し、鹿児島の婦人科腫瘍の治療に積極的に取り組んでいく所存です。近隣の先生方におかれましては今まで同様、患者様のご紹介の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。また、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

産婦人科：築 伸太郎
 兒 島 信 子
 内 田 那津子
 徳 留 明 夫

産婦人科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
婦人科	兒島信子 徳留昭夫	築伸太郎 内田那津子	手術日	築伸太郎 兒島信子	築伸太郎 内田那津子
産科	内田那津子	徳留昭夫		徳留昭夫	兒島信子

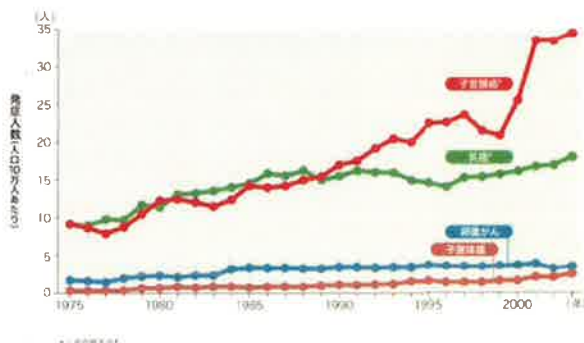


図1：婦人科領域の癌の発症率推移（20-39歳の日本人女性）

子宮体癌の疫学

米国における最も頻度の高い婦人科悪性腫瘍

2013年 体癌 49560 (39300, 2002年)
卵巣癌 22240
頸癌 12340 (上皮内癌を除く)

子宮体癌の発症数の推移
(日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会報告)

2003年
3722例

2011年
7273例



40歳未満 2003年 236例 (6.4%) 2011年 401例 (5.5%)

図2：子宮体癌の疫学

診療科紹介 — 血液内科 —



血液内科部長 大塚 真紀

当鹿児島医療センターには2001年10月に血液内科が新設されました。当時、現院長の花田先生と1名の医師で各病棟のベッドを借りて診療を始め、次第に患者数が増えてきました。その後平成22年10月に西4階病棟に5室の無菌室が整備され、平成23年度末から入院患者の増加に伴い7月から西4階病棟は血液内科単科となりました。平成25年度には年間のべ17,287人の入院患者を診療しています。疾患別に見ると急性白血病、悪性リンパ腫ともに増加傾向で特に急性白血病は5年前に比べ倍増しています。開設当時から自己末梢血間細胞移植、血縁者間末梢血幹細胞移植を施行してきましたが、西4階病棟に無菌室が整備されて以降、血縁者間の骨髄移植が可能となり移植数及び骨髄採取数が施設基準を満たし、骨髄バンクとさい帯血バンクの移植認定施設となりました。また当院に血液内科が開設されてからの念願であった全身照射も放射線部の協力を得て平成24年度から開始されました。また平成24年12月末には無菌室を増床し現在個室が7室、4人部屋の無菌室が3室、計無菌室が19ベッドとなり増加している急性白血物の治療や移植に対応できるようになりました。平成25年3月末には初めてのさい帯血移植を施行しました。このようにさまざまな造血幹細胞移植に対応できるようになりました。一方で血液疾患の分野には分子標的薬剤を含む多くの新規薬剤が導入され、特にこの10年間で血液疾患領域の治療はめざましく変化してきています。それぞれの患者様の状態に応じた治療が選択できるよう、新しい治療を取り入れながら、他の職種の人たちと連携を取りチーム医療に取り組んでおります。しかしながら、鹿児島に多い成人T細胞白血病(ATL)に関してはその疾患概念が確立されてから約30年を経て未だ治療成績が向上していないのが現状です。抗CCR4抗体や造血幹細胞移植などの導入を行っていますが、今後も新たな治療法を積極的に導入して行く予定です。

鹿児島県全体をみても血液疾患の患者数が増加しています。しかし診療する方のマンパワーが落ちていることは否めません。ご紹介いただく患者様には極力対応できるように努力していますが、全国的にみても血液内科医は不足している状況の中で今後の少しでも若い先生に血液内科に興味をもってもらうことが当科としては現在最大の課題だと考えています。

循環器合同カンファレンスのご案内

当院では、毎週月曜日午後6時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科などと合同で症例検討会を行っています。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

開催日：毎週月曜日 午後6時～

問い合わせ先

鹿児島医療センター地域医療連携室

電話 099-223-1151

FAX 0120-334-476

皮膚科・皮膚腫瘍科

診察開始のお知らせ

平成26年10月1日(水)より

皮膚科・皮膚腫瘍科(担当医: 松下 茂人 皮膚科医長)の診察を開始致します。

今後ともよろしくお願い致します。

第1回 オープンキャンパスを終えて



鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校
オープンキャンパス実行委員長
22回生 吉行 大和

平成26年6月21日、当校の2年生が中心となり146名の高校生・社会人の方々をお迎えしました。

今回は衛生学的手洗い、呼吸音聴取、沐浴・妊婦体験、AED・静脈注射モデルの教材掲示、ウェルカムボードの作成など様々な企画を行いました。オープンキャンパスの準備や練習は学科試験とも重なっていたため2年生をまとめていくことが大変でした。しかし、参加された方々の満面の笑みが多く見られたことで、期待以上の成果が得られたと嬉しく感じました。

私達2年生は、今回のオープンキャンパスを準備するにあたって、どのように工夫したら参加者が看護を理解しやすく楽しめる体験が出来るか、自分達が高校生であったら何を経験し見聞きたいかなどを共に話し合い考えました。私達自身もこうして決定したことに対し試行錯誤を繰り返すなかで、チームとして行動することや団結することの重要性を学べたと思います。高校生との懇親会でも、出身校や出身地の学生と話出来るようにグループ編成を考えて実施したことで、多くの話が聞けたと満足していただきました。参加者の笑顔を見て、私達も達成感が得られました。

私自身、気づかされたことは、私達は育てられるだけではなく、オープンキャンパスを通してまだ見ぬ後輩や次の世代を育てる立場になっているということです。そして、来られた方にわかりやすく伝えることの難しさを学びました。高校生から赤ちゃんの抱き方について、「何故そのように抱くのか」という質問があり、私達は学習して知っていましたが普通は知らないものだ気づかされ、参加者からの質問から教えられることも多くありました。まさに「我以外皆我師」という言葉を肌で感じた日となりました。

知ること、出会うことで縁は始まります。私は鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校を知ること、当校の理念や教育方針に惹かれ受験を決意し努力のすえ合格し入学しました。入学してからの先生方や仲間達、病棟のスタッフの方々や患者さんとの出会いも私にとって大切な縁と言えます。私はこのような多くの縁にたどり着くまでに、多くの人達に支えられ更に多くの恩恵を受けてきました。今後は看護学生として、実習で出会う患者さんやご家族へその恩恵を返していきたいと思います。



新任紹介



心臓血管外科

川井田 啓介

7月から心臓血管外科で勤務しております。鹿児島大学病院から異動してまいりました。

症例数、緊急手術の多い施設で、外科医としてのやりがいを感じつつ働いております。

心臓手術の遂行には、循環器内科医や麻酔科医、集中治療部や臨床工学技士、検査部など、多くの医療職との関わりが不可欠です。スタッフとのコミュニケーションをはかり、円滑に業務が進むよう努めて参ります。よろしくお願ひします。



産婦人科

徳留 明夫

平成26年7月1日より県立大島病院より赴任してまいりました徳留です。

外科の山元先生と同じく、4年前までこの医療センターで研修医をさせていただいておりました。今回、赴任してすぐに、お世話になりました先生方、スタッフの皆様にお会いすることができて本当にうれしく、そして懐かしい気持ちでいっぱいになりました。まだまだ、できないことが多いですが、育てていただいたこの病院で少しでも恩返しができるばと思っております。

みなさま、気軽に声をかけてください。ご指導のほどよろしくお願ひいたします。



放射線科

瀬之口 輝寿

7月より鹿児島医療センター勤務となりました。画像診断とIVR領域で少しでも他科の先生方の診療に役立つことができればと思っております。

放射線科の領域は、他科の先生方、放射線技師、看護師、医療事務など多数の職種の方々の連携で成り立っています。まだまだ未熟で御迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



脳神経外科
レジデント

山下 麻美

平成26年7月より赴任しました脳神経外科の山下麻美（まみ）です。前任地は奄美大島の県立大島病院で、二人体制の脳外科で働いていました。医療センターでは、全く違った環境で働くことに不安と心細さがありましたが、大学の同級生や、学生時代にお世話になった先生にお会いでき、少しほっとしております。脳外科医としての手術経験の他にも、医師としてたくさん学びたいことがあります。積極的に学ぶ姿勢を忘れずに、毎日の仕事に取り組みたいと思っております。皆さんと協力し、助け合いながら働いていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



小児科
レジデント

小川 結実

7月から勤務することとなりました、小児科の小川結実です。6月までは1年間鹿児島大学病院に勤めていました。慣れない循環器疾患の患者さんの外来治療や、電子カルテ、広い病院内で迷うことがまだ多いですが、毎日が充実しています。日々勉強し、お役に立てるように頑張ります。御迷惑をお掛けしますがどうぞ宜しくお願ひ致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 薩田・四丸・井手・濱口・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

